

分科会 5 充実させよう、薬剤師の生涯学習 —応えられる薬剤師となるために—

W-05-05 英国における生涯学習について

うえだ あや
上田 彩

聖マリアンナ医科大学病院薬剤部

英国の薬学教育は4年制の学部教育と1年の必須実務研修の5年で薬剤師免許取得に至る。免許取得時には継続的な専門能力開発 Continuous Professional Development (CPD) を行うことで質の高い医療を薬剤師として国民に提供することに同意しなければならない。薬剤師免許交付は薬剤師会により行われ、更新には年会費の納付とCPDの記録を提出する必要がある。この記録はCPDポートフォリオと呼ばれ、オンラインで記録をメンテナンスできるシステムがある。提出された記録の内容の評価も薬剤師会が行う。

CPDの実践とは、大学教育や実務研修とは異なり、日々の業務や役割の中で個々の薬剤師が取得すべき知識・スキルなどを把握し、それに対して学習計画を立て、実践し、評価するという一連のサイクルである。英国において特徴的なのは、このCPD実践を個々の努力に委ねるだけでなく、CPD実践をサポートするために薬剤師会・薬科大学・病院薬剤師・地域薬局薬剤師の連携グループ Competency Development & Evaluation Group (CoDEG) が作成した卒業教育フレームワークが存在することである。このフレームワークは薬剤師のキャリアラダーに沿った competency を設定している。例としては、英国の病院薬剤師にはグレード制があり、各グレードの薬剤師が必要とする知識や能力が設定されている。すなわち、個々の薬剤師のポストの job description (職務記述書) にこのフレームワークが組み込まれており、それによって病院は薬剤師の採用を行い、評価し、キャリアアップへとつなげ、人材育成を行う。薬剤師としては、免許更新にCPDは不可欠であり、またキャリアアップへのインセンティブになっているのである。

本邦においては、薬剤管理指導料の導入や医薬分業が病院薬剤師を調剤業務から病棟業務へ発展させ、地域薬局でもプライマリーケアを担う薬剤師の役割が確立してきており、様々な認定・専門薬剤師などの生涯学習制度が薬剤師の役割の拡大を支援してきた。薬学教育は4年制から6年制へと移行し、2012年には6年制教育を受けた薬剤師が誕生する。臨床でそしてプライマリーケアでの活躍が期待される新たな薬剤師への教育改革が行われている。実務研修においては、到達目標が設定されたが、薬剤師が行っている業務にも質の維持と継続的な成長につながる Standards が必要である。また薬剤師の業務を評価し、キャリアアップにつなげていけるインセンティブが今後の薬剤師の躍進の鍵となるのではないかと考える。